

## 放射線環境学レポート

被災地の農業再生について、未だ被災地の農産物には危険があるという一般消費者の認識がそれを妨げている一番の原因であると私は考える。震災後、マスコミによって放射線の危険性が伝えられたが、それは無秩序になされ、その背景には正確な情報も無いものだった。それ故にただ『危険である』というイメージだけが先行し、一般消費者は被災地の農産物の消費を避けるようになってしまった。これが現在でも尾を引き、そのイメージが被災地の農業再生を妨げているのだ。

日本の食に関する基準というものは厳しいものである。だからこそ被災地としてもその基準をクリアしたものが増えていることをアピールし、被災地の農産物は危険であるというイメージを払拭しようとしている。しかしそれだけで被災前と同じ需要が生まれているかというそれは違う。それは何故か。消費者にとってみれば、消費するものが安全であることは当然だからであると私は考える。一般消費者にとって、農産物が一度震災によって危険性のあるものだと判断してしまうと、安全になったからといってわざわざ被災地の農産物を消費する理由にはならないのである。

だからこそ私たちは正確な情報を得なければならない。正確な情報を得て、単なるイメージを脱ぎ捨てなければならない。そのために、私自身が出来ることとしては、やはり被災地を訪問することにあると私は考える。ネットやニュースといった伝聞によって手に入れた情報には偏りが出てしまう上、どうしても直接体験するよりも実感というものが湧きにくい。実感というもの無しに為される被災地の農業支援というものは、震災後マスコミによって引き起こされた『被災地の農産物は危険である』という根拠のないイメージの拡散と同様、盲目的ではないだろうか。

やはり個人での農業再生というものには限界がある。上で述べたように、正確な情報とそれに基づく実感によって、自分と自分の周囲の人間の被災地に対するイメージの払拭を地道に続けていくしかない。私はそう考えます。